

## 外来化学療法室の特徴は どんなところでしょうか。

済川 ● 医師だけでなく、看護師・薬剤師・栄養士・臨床心理士といった多職種が連携しています。毎朝、患者さんについてミーティングを行い、スタッフ間の意思疎通を徹底しています。各診療科の主治医にも、治療方針や副作用などの情報についてフィードバックし、よりよい化学療法を目指しています。また、化学療法室では、ベッドごとにカーテンをつけることでプライバシーを確保。放射線状にベッドを並べ、中央にスタッフがいて、スタッフからも患者さんの容態がすぐに分かりますし、患者さんもスタッフに声をかけやすい環境になっています。

## 不安も多い患者さんのため、 大切にしていることは何でしょうか。

森 ● 患者さんの多くは副作用や合併症を不安に思っています。入院中は気になる症状が出た時に医師や看護師へ伝えることができるのですが、外来治療ではそれが難しいため不安に感じているようです。そ

のため、外来治療時に自宅での生活の様子を聞き、患者さん自身が身体の状態に気づけるよう副作用に関する説明を繰り返し行っています。また、退院後は仕事復帰する患者さんも多く、生活状況に合わせて実践可能なセルフケア方法を提案するように心がけています。そして日常生活を少しずつ取り戻していく中で、症状のコントロールができるようになることを一緒に喜ぶという積み重ねを大切に、実践しています。

## 患者さんの反応や声には どういったことがありますか。

永井 ● 免疫力を上げたい、感染予防の食事について知りたいといった声が多く聞かれます。入院中であればスタッフがすぐに対応できますが、自宅では自らに委ねられ不安も強いものと思われれます。しかし、外来で治療を行うことにより慣れた味付けや料理を口にすることができ、好きな物を好きな時に食べられるといった自由度があります。それらに食事と栄養に関する知識を組み合わせることができれば、自由度を持ちつつ入院中と変わりのない栄養療法

を行うことができます。食べられない原因や不安感を共有し、個々にあった調理法や、その工夫、食欲不振時の栄養補助食品の活用など、患者さんの視点に立った治療と生活の支援に務めています。

## 紙面を通じて患者さんに 伝えたいことをお願いします。

竹内 ● 外来化学療法室では、退院前にオリエンテーションを行います。わからないこと・知りたいこと・不安なことがあれば何でも、どんどん訊いていただければ、外来化学療法室や各診療科で対応します。患者さん以外の方でも総合診療サポートセンターなどに相談していただければ、その情報は私たちにも届きますので、一緒に考えていきたいと思えます。気になることはぜひ相談してください。

当院では患者さんが前向きな気持ちで治療を継続していけるよう、チームでサポートします。患者さんが安心して治療と向き合うこと、治療を続けながら生活を送れることを大事にし、よりよい医療・看護を提供していきたいと考えています。



### PROFILE

たけうちかずと◎大阪市出身。1996年愛媛大学医学部卒業。2003年愛媛大学大学院医学系研究科博士課程修了(医学博士)。宇和島社会保険病院(現JCHO宇和島病院)内科医長、愛媛県立中央病院血液腫瘍内科部長を経て2014年より現職。内科専門医、血液専門医。趣味はサッカー観戦。



### PROFILE

もりなつき◎今治市出身。2009年順正高等看護専門学校卒業後、当院勤務。日本看護協会神戸研修センターにて認定看護師教育課程修了。2015年がん化学療法看護認定看護師に認定。趣味は、映画鑑賞、写真、ヨガ。



### PROFILE

すまかわさとみ◎松山市出身。2008年熊本大学卒業後、2010年熊本大学大学院博士前期課程修了。2010年より現職。日本医療薬学会がん専門薬剤師、日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師。趣味はバレーボール、スキндаイビング。



### PROFILE

ながいよしこ◎伊予市出身。1997年徳島文理大学卒業。2009年愛媛大学農学研究科(修士課程)卒業。1997年より当院に勤務し、2010年より現職。がん病態栄養専門管理栄養士、NST栄養専門療法士。趣味は音楽鑑賞、読書、アウトドア。